

植林地に植えられている木

針葉樹を中心に、開けた環境でも耐えられる樹種が植えられています。開拓時代や運動によって植林されたこの木々は、防風フェンスの役割を果たすなど「自然の森をつくるための森」を担います。



シラカンバ

本州では標高の高い所でしか見られませんが、寒い北海道では平地にも普通に生えています。



アカエゾマツ

北海道を代表する木の一つ。過酷な条件でも育つので開けた環境に植えるのに最適。運動地に最も多く植林されている木です。

雌花

カラマツの花

雄花



カラマツ

もともとは北海道に自生していなかった木。開拓時代に防風林として植えられたもの。秋には紅葉して運動地を黄色く彩ります。

トドマツの花芽



トドマツ

知床の森を代表する針葉樹。モミの仲間、先のとがっていない柔らかい葉をしています。

苗畑で育てている木

天然の森から種を集め、運動地に植えていく苗を育てています。それは、多様な木が生える森を復元するために必要な**広葉樹**です。



苗畑で育つ苗



カシワの雄花

カシワ

海岸近くに多く、葉が柏餅に使用されることでおなじみの木。ドングリの木の仲間です。



ミズナラのドングリ

ミズナラ

知床を代表する広葉樹。直径1mを超える巨木になります。秋にはたくさんのドングリを実らせ、ヒグマをはじめ森の動物たちに恵みをもたらします。